



園だより2月号

令和7年2月1日
 社会福祉法人 愛光会
 ハローこども園
 浜松市中央区下江町 522 番地
 電話(053)425-5586

各クラス、工夫のある子ども達のお面が賑やかに出来上がる節分の季節ですね！節分とは本来、季節の変わり目のことで立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを指します。では、なぜ2月の節分だけが行事として残っているのかというと、立春が『四季が一巡りした1年』の最初であるため、新年と同じくらいに大切な行事とするよう、室町時代に決められたからだそうです。寒さの厳しい暗い季節の中に、明るく楽しいイベントを！と、昔の人も考えたのかもしれませんがね。節分を過ぎれば春ですが、まだまだ寒さは続き、感染症等が流行しやすい時期です。体調管理に気をつけて過ごしていきたいですね。

お知らせ

○未満児クラス懇談会について

7日(金)19:00～未満児懇談会を予定しています。お忙しい事と思いますが、ご都合をつけて参加して下さいようにお願いします。

○お別れ遠足について

28日(金)のお別れ遠足は、ほし組、つき組で行きます。詳細は配布した手紙をご覧ください。

○2月6日から3月8日までの間、聖隷クリストファー大学2年生の学生1名が保育実習に入ります。未来の保育者育成のためにご理解、ご協力をよろしくお願いします。

2月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 節分	4 身体測定 (めだか・うさぎ)	5 親子ひろば	6 音楽教室 身体測定 (りす・ほし)	7 未満児クラス 懇談会 身体測定 (ひよこ・つき)	8
9	10 体操教室	11 建国記念の日	12	13	14 避難訓練	15 一年のまとめ 職員会議
16	17 体操教室	18	19 親子ひろば	20 音楽教室 園長会	21 お作法教室 (つき)	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25 以上児誕生会	26 親子ひろば	27	28 お別れ遠足 園外保育の日 (お弁当持参) 保育料口座振替 引落日	

ハローこども園の学び

～学びに向かう力、人間性づくりを～

学校教育法では、「義務教育の目標」として第 21 条第 3 号で、「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」とあります。

1 月 20 日にアメリカでは、トランプ大統領の就任式がありました。新たな政権における有力者「政府効率化省」のイーロン・マスク氏も、日本の文化を愛し「わび」「さび」の精神を大切に思っていると聞きます。

私たちは、我が国の文化にもっと誇りを持つべきです。小学校では、生活科や社会科、国語、音楽などの教科の中で、日本の遊びや工芸品、歴史、歌、楽器などについて学びますが、園でも、幼い時期から、そうした日本の文化を、遊びや行事の中で楽しみ、その素晴らしさを体感してほしいと願っています。

宮野恵理子

カルタ

いろはかるたも歌かるたは、江戸社会が産んだ日本独自の教養豊かな知的ゲームであり、特に百人一首や源氏物語のかるたは、庶民が楽しみつつ古典文学・王朝文化に触れることができるすばらしい遊び文化でした。

福笑い

江戸時代後期に誕生し、明治時代頃に広く普及したとされているようです。また、お正月に行われるようになった理由も定かではないものの、「笑う門には福来る」ということわざにならって、新年に福笑いをしてみんなが笑うことで、幸せを呼び込む意味があったと伝えられています。



ほし組さん



ひよこ組さん



縁日

奈良時代ごろに朝鮮半島から伝わった。まっすぐ芯が通って回り続けることから「物事が円滑に回る。」として縁起物となり、お正月遊びとして親しまれるようになりました。うまく回ると子供が早く立ち立けるといわれています。

子供たちが、お正月に初詣に行き、縁日を楽しんだ思い出を振り返り、縁日ごっこを楽しみました。



うさぎ組さん



ほし組さん

呈茶



りす組さん



お作法教室では、「おもてなしの心」を学びます。それは、相手に対する「気遣いの心」や「思いやりの心」として現われてきます。上のイラストは、足が悪くて椅子に座っているお客さんへの気遣いです。



つき組さん

ハローこども園の学び

～学びに向かう力、人間性づくりを～

「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要であるため、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが大切です。

欧米などでは、生徒個人またはグループに分かれて課題に取り組むスタイルで授業が行われているため、アクティブラーニング的な就学前の学びから学校への学びはスムーズです。一方、日本の学校は全員が同じ方向を向いて行う一斉授業という形態をとっているため就学前の保育園や幼稚園、こども園でアクティブラーニング中心に学んできた子どもたちは、小学校に入学した途端、一定時間黙って椅子に座らされるなど、拘束されることが多くなります。そこで、国では、5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当てて試行しているのです。

本来なら15年間のつながりをもって教育課程が立てられることが理想であると考え、園でもできる限り、小、中学校の教育課程につなげていくカリキュラム作りを心がけています。

宮野恵理子

つき組さん、河輪小で交流学習

コロナ前は、毎年河輪小学校に出かけて、ドングリ拾いをしたり、昼休みに小学生と遊んだり、生活科の授業に参加したりして、自然な交流を行っていました。しかし、コロナの流行によりすべてが中止になって、5年。やっと、生活科の授業に参加させて頂くことができるようになりました。

河輪小学校の玄関に、到着するとさっそく1年生が迎えてくれて、教室まで案内してくれました。



1年生が作ったゲームで遊ばせてもらいました。グループごとに分かれて、自分たちが作ったドングリゴマやマツボックリのけん玉、ドングリ迷路やドングリの的当て、葉っぱの魚釣りなどのゲームのやり方を、親切に教えてもらいました。

1年生は、日頃一番小さい学年で、上級生に教えてもらおう機会が、多いのですが、この日は、張り切ってとても上手に説明していました。



ここが、スタートだよ。



両手で回すと、うまく回るよ

子供たちは、園に帰る途中「楽しかった！」と口々に言っていました。園に戻ると、その喜びを早速お手紙にしました。



かわわしょうの 1ねんせい

その後、子供たちの中から「ゲーム作ってみたい。」という声上がり、早速材料を集めて、ゲーム作りをはじめました。

魚釣りの魚。きれいでしょ！



いろいろな点数があるよ。30点、とか100点とか！



ここが100点、ここが1000点、ここが10000点だよ！



今年のつき組さんが1年生になった時には、より創造力を働かせたゲーム作り発展するだけでなく、自分たちがもてなしてもらった経験を生かして、より温かく年長さんを迎えてくれることと思います。ハローこども園では、小学校との交流学習を、このように子供たちの学びをつなげ、膨らませていけるよう、カリキュラムに反映していくための大切な活動として位置づけています。

～学びに向かう力、人間性づくりを～

7月号でも紹介しましたが、小学校のカリキュラムの一つとして特別活動があります。その中に異年齢による活動が組まれています。具体的には「クラブ活動」や「縦割り班活動」「異学年交流」「ペア活動」など学校によって様々な試みがなされています。

私が6年生の担任だったころに苦い思い出があります。その学校では、6年生が1年生とペアになり、様々な活動を組んでいました。春の遠足は、6年生が1年生の子供の手をひいて、近くの公園に出掛けました。ところが、公園につくと、1年生をそっちのけで、自分たちだけで遊び始めてしまったのです。

今思えば、学校の特別活動のカリキュラムに問題があったように思います。6年生と1年生のペア活動以外に、継続的な異学年での活動がなかったのです。その上、幼稚園や保育園からの異年齢活動も組まれていませんでした。

異年齢活動は、就学前から小学校高学年まで継続していかなければ効果がないことを感じています。

現代は、子供たちの祖父母の皆さんの時代のように、異年齢の兄弟姉妹、近所の子供等、年齢の異なる子供たちが一緒になって遊び、上の子が下の子の面倒を見たり、教えたり、下の子が上の子にあこがれたり、まねしたりといった環境にありません。だからこそ、効果的に異年齢活動を行うことで「**協調性と社会性**」「**人間関係を構築する力**」「**思いやりの気持ち**」「**興味、関心、意欲**」「**自己肯定感の向上**」といった力を育む必要性があることを感じています。

宮野恵理子

朝夕の自由遊びの時間には、様々な異年齢の子供たちの関りがあります。朝、0, 1歳児の子供たちが出て来ると、靴を履かせようと年上の子供たちが駆け寄ってきてくれます。マラソンで転んだ小さい子を見付けると、みんなが集まってきて助けようとします。遊びの中でも、上の子が下の子に丁寧に教えている姿を見かけます。

外遊び



おばけ。
おばけ。



ああ、あの雲？

T君は、いつも雲見ておばけって言うね。



おばけ
〜〜

雲を指さし、「おばけ。」と言うひよこ組さんにお化けの格好をして見せて、笑わせるつき組さん。

あやとりをうさぎ組さんに教えるつき組さん



そうそう、この指にひっかけて

めだかさんを立たせてあげるうさぎ組さん



大丈夫？立てるかな。

ハロウィン

ハロウィンでは、うさぎ、ほし、つき組みんなで協力して作ったお化け屋敷を探検します。自分たちで作ったお化け屋敷ですが、真っ暗な上に保育教諭の仕掛けに足がすくむ子供たち。うさぎ、ほし、つき組の3人グループで暗闇を進みますが、どんなに怖くても、つき組さんは先頭に立って、年下の子供たちを引っ張っていかねばなりません。



Trick or treat

3人グループでお面を制作。

怖いけど、3人で行けば大丈夫。

ハローこども園の学び

～学びに向かう力、人間性づくりを～

小学校3年生になると、教科とは別に「総合的な学習の時間」が始まります。総合学習では、「国際理解」「地球環境」「地域課題」「福祉」などの身近な問題に、体験的・実践的学習を通して、これからの生活のあり方や生き方と自分探しにつながる創造的な総合知をはぐくむ学びを目指します。

そして、総合学習の教科との大きな違いは、各学校独自に地域の特性を踏まえてカリキュラムがつけられていることです。子供たちが総合学習で主体的・協働的に問題を発見し解決していくことができる学びにつなげていくためには、子供たちが、そうした身近な問題にかかわる体験を幼児期から十分にいかにかき積み重ねていくことが大切です。

今月は、園における自分の身近にいる高齢者との交流を中心に紹介します。

園では、子供たちが身近な高齢者に対して尊敬の念をもって交流することを通して、互いの立場を理解し、尊重し温かい気持ちで接してほしいと願っています。そして、より高齢化社会が進む中で、今後も支え合いながら、共に生きて助け合おうとする気持ちを大切に生きていってほしいと考えています。 宮野 恵理子

ふれあい交流 ～芳川の里～

お寺の和尚さんが、カボチャの種をまきました♪



芽が出て、ふくらんで、花が咲いて実がなって♪♪♪

芳川の里には、子供たちにとっては曾祖父母ぐらいの高齢者が多く、子供たちの姿を見ると、顔がほころんで、とても嬉しそうに、「おいでおいで。」と、声を掛けたり手招きをしたりしてくれます。

子供たちにとっては、自分たちの祖父母よりかなり高齢の方たちばかりなので、少し戸惑いがありましたが、喜んでくれる姿を見て、だんだん打ち解けて関わっていくことができました。

祖父母交流会 ～りす組さんの秋祭り～

この夏、りす組さんの子供たちは、家庭で花火大会に行ったり、地域のお祭りに行ったり、保護者会の夏祭りに参加したりと、お祭りの楽しい体験をしたことで、自分たちもお祭りをしたいという声が上がりました。

そこで、クラスみんなで夏祭りを楽しみ、大好きなおじいちゃんやおばあちゃんを夏祭りに招待することにしました。

自慢のおばあちゃん

その帽子のつば、上手に直してもらったね。すごい！

Hくんのおばあちゃんが、直してくれたんだ。



うん！ぼくのおばあちゃん。すごいでしょ。



いくらですか？



いらっしやいませ



お！釣れた。釣れた。

つき組になると帽子が劣化してきます。そんな帽子を新しく買い替えるのではなく、最後まで使うよう、直してくれるおばあちゃん。そして自分の孫の事だけでなく、園で関わる子供たちのことも、自分の孫のように気にして下さり、本当にありがたいことです。

やはり、おじいちゃんやおばあちゃんは経験も豊富で、とても器用です。子供たちにとっては、自慢の存在です。

子供たちが、大きくなった時、おじいちゃんやおばあちゃんにたくさん恩返しできるとよいですね。

お迎えや病気等、いつも助けてくれてわがままを聞いてくれる大好きなおじいちゃん、おばあちゃんを夏祭りでエスコート。おじいちゃん、おばあちゃんがかもともっと年を取っても、ずっとずっと感謝の気持ちを忘れず、敬って、大切にしていってほしいと思います。

ハローこども園の学び

～学びに向かう力、人間性づくりを～

まだまだ、暑い日が続いていますが、もう夏も終わりです。先月号では夏の遊びの中での友達との関りや物理的、科学的な体験について、紹介させて頂きました。今回は、同じ夏にしかできない体験の中でも、生き物とのかかわりや野菜の収穫などを中心に紹介させて頂きます。子供たちは、友達と共に夏にしかできない生物的な認知能力につながる経験の中で、「人と関わる力」「身近なものや出来事とかかわる力」を育てていきます。

宮野 恵理子

脱皮

春から夏にかけて、子供たちは、いろいろな生き物が生まれて育っていく姿を見てきました。カニやザリガニなど脱皮をするたびに大きくなる生き物もいれば、チョウのように姿を変えて成長していく生き物もいました。



1匹しかないよ。カワだよカワ!



今年もみかんの木（以前卒園児が給食の種を植えたもの）にアゲハチョウが卵を産みにきてくれました。子供たちが、いち早く卵を見つけて少しの間観察してもらい、各クラス1匹ずつ旅立たせました。3年生理科の「昆虫のからだづくり」の単位では、モンシロチョウを教材に学習が展開されます。初めての理科で学習するこの教材をどう感じるかが、これから続いていく理科の学習への興味、関心を大きく変化させるものと考えています。就学前から自然に昆虫とかかわる中で、昆虫に対して「気持ち悪い」「触りたくない」といった悪い印象を持つことなく興味深く、理科と出会ってほしいと願います。

夏野菜

今年もたくさんの夏野菜を収穫しました。簡単に焼いて野菜そのもののおいしさを味わうこともあれば、夏野菜カレー等クッキングして味わうこともありました。また、さまざまな活動を通して、味以外の野菜の特徴を発見しました。



育てたトマトに、小さな穴が！ほし組の子供たちは、中に虫がいるのではないかと思い、担任に「切ってみてほしい。」と頼みました。恐る恐る切りましたが、穴は途中で終わっていました。どうやら虫は、お腹いっぱいになって、出ていったようです。トマトの断面もじっくり観察しました。

ひよこ組、りす組、うさぎ組、ほし組、つき組の子供たちが、交代でスイカを叩きましたが、なかなか割れません。つき組さんの番になり、やっと割れました。スイカの皮が固いことを実感した子供たちでした。

野菜のスタンプで遊ぶひよこ組さん。オクラの断面はおもしろい形ですね。

つき組の子供たちは、収穫したトマトをカレーに丸ごと入れようと、凍らせておろし金でおろしてトマトたっぷりのカレーを作りました。いつものカレーとは一味違うさわやかな味わいのカレーを楽しみました。

～学びに向かう力、人間性づくりを～

夏真っただ中、毎日暑い日が続いていますが、子供たちは全身で夏ならではの遊びに没頭し、収穫した夏野菜の味覚を堪能し、五感を働かせて毎日夏を満喫しています。水遊びや、夏の生き物とのふれあい、夏に収穫する野菜のクッキング等の夏しかできない経験を通して、友達と活動しながら「人と関わる力」を身に付けていきます。そして、水、生き物、野菜などを媒介に「身近なものや出来事とかかわる力」が育まれ、生物や科学、物理など理科的思考の基礎が培われていきます。今月は、水や空気を中心とした夏の遊びを紹介します。

宮野恵理子

サマーフェスティバル

先日のサマーフェスティバルでは、色水遊びや氷遊び、シャボン玉、ひんやりゼリー、水クッション、泡遊び、ペットボトル水鉄砲バトル等、様々な夏しかできない遊びを楽しみました。

氷

水で洗濯したら、洋服が凍っちゃうよ。

温度で変化する水

冷たくて気持ちいい！

どんどん溶けて、水になっちゃう。

シャボン玉

紐を丸めた輪っかでも、シャボン玉ができるよ。

温まると軽くなる空気

+

最初は、紐や道具を動かすことで、シャボンに空気を入れようとしていた子供たちですが、すぐぼんで下へ落ちてしまいます。そのうち自分の口から空気を吹き込み始めました。すると、前よりうまく膨らみ、シャボン玉はふわふわ浮かび始めました。吹き込んだ空気は温かい上に大きく膨らんだため、周りの空気より軽くなり、シャボン玉はふわふわと長く浮かんでくれたのでしょうか。

3チームに分かれて水鉄砲バトル

泡が出なくなったら、お水がいっぱいだよ。

ポコポコ

バトルに向けて気合を入れるチームの隊長

チームで協力して、ポイを破ります。ポイが破られなかった人数の多いチームの勝ちです。

どうしたら、水がたくさん跳ぶかを教え合う子供たち

ペットボトルが、ぺちゃんこになったら、水が飛ばなくなっちゃった。

ペットボトルを膨らめて、押したら飛ぶよ。

ペットボトルに水をいっぱい入れたらすごいぶ飛ぶよ。

水の圧力

空気の圧力

4年の理科「空気と水の性質」の単元では、空気の圧縮や水の圧縮についての学習をします。空気や水による現象を力と関係付けながら実験し、調べ、見出した問題を興味・関心をもって追究したりものづくりをしたりする活動を通して、それらの性質についての見方や考え方を養います。

就学前の水や空気と関わる遊びの体験は、小学生になって、やったことのない実験をしたり調べたりするための計画や予想を立てる力につながっていきます。

ハローこども園の学び

～学びに向かう力、人間性づくりを～

小学校の学びは教科だけでなく「特別活動」という領域があります。「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」ことを目標に、子供たち自身が楽しい学級にしていくための学級活動や自然の中で集団宿泊活動を行うなどの行事等がカリキュラムに組み込まれています。けれども、そうした力を養うには、幼児期から「自分のことを自分でする力」「人と関わる力」「身近なものや出来事とかかわる力」を、育んでいくことが大切です。今月は、園でのお泊り保育や園外保育のできごとを紹介していきます。

宮野恵理子

お泊り保育

スタンプラリー 力を合わせてゴール！



おいしい梅をありがとう！



岩堀さんからお借りしている畑の梅を取らせて頂き、梅ジュースや梅ジャム、梅干を作りました。ほし組さんが、お礼の手紙を届けに行った時のことです。



1人5回数えたら代わろう。

自分たちでルールを考えて、プランコを楽しませていただきました。

スタンプラリーでは、サワガニ、三重塔、お地蔵様、アジサイ、モミジ、トンボ、ニホントカゲ、天狗の下駄、竜を探して、ゴールに向かいました。道中、迷ったり、けんかしたりすることもありましたが、みんなで話し合いながら協力して、どのグループもゴールに着くことができました。

子供たちは、小さなこども園から外へ飛び出し、いろいろな人と関わりながら、世界を広げていきます。また、問題にぶつかったときには、友達と相談しながら、主体的に課題を解決することを通して、さまざまな力を付けて、成長していきます。

～学びに向かう力、人間性づくりを～

今年度から、また1年ぶりに「えいごで あそぼう！」が、復活しました。小学校では、3年生から外国語活動の授業が始まりますが、小中学校の活動では、「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の三領域における言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質や能力を育成することが目的です。

ハローこども園では、「えいごで あそぼう！」を通して、世界にはいろいろな国があり、いろいろな人がいることや英語でコミュニケーションを持つことの楽しさを味わうことを目的としています。しかしながら、英語というまだ慣れ親しんでいない言葉のやり取りの中では、いろいろな出来事が起こります。そうした中でも、浜松市が幼児期に育てたい力の土台として上げている「自分のことを自分でする力」「人と関わる力」「身近なものや出来事とかかわる力」を、育んでいければと考えています。

宮野恵理子

先日つき組さんで、3回目の「えいごで あそぼう！」の活動を行いました。自分の名前が書かれた首掛けカードづくりを通して、「ローマ字で書かれた自分の名前が分かる」ことや「あいさつや自己紹介の会話の流れが分かる」こと、「色の言い方が分かる」ことがねらいでしたが、それ以上にいろいろな学びがありました。

はいー！ Who likes blue? 負けちゃった・・・ Hくん他には何色が好き？ Who likes red? はい！

青がよかったのに・・・ 赤

はいー！ はい！ じゃんけんだね。

Hくん、がんばれ！ がんばれ！ やったー！

じゃんけんポン！ よかったね。

思い通りにならないと、辛くなって泣けてしまうことはよくあることです。自分と同じように欲しい物がある友達がいることを知り、楽しく遊び、安心と満足を得るためには自分の欲求を抑えたり、適当なところで手をうったりする必要があります。Hくんは、友達に励まされながら、自分の思いに折り合いをつけることができました。

Thread ribbon through the two holes Tie the ribbon

結べない。 難しい。

できた！ 縄跳びみたいに結べばいいよ！ 教えてあげるね できた！ ありがとう。

丸めて。ここに通して

このように、友達に教えてもらったり励まされたりしながら、リボンが結ぶことができたという達成する喜びを味わう事が積み重なって自信を持ち、生き抜く力の基礎に結びつきまいていきます。



1回目の「えいごで あそぼう！」では、「Hello」「How are you?」などのあいさつ、2回目から3回目にかけては、ネームカードづくりを通して、色や名前について学びました。そして、3回目の最後に、英語の絵本「Brown Bear Brown Bear What Do You See?」を読み聞かせました。絵理先生が、絵本の中のいろいろな色の動物を見ただけで、子供たちの中から色の名前が英語で出てきました。4回目の「えいごで あそぼう！」では、3回の経験をもとにアルファベットの歌や色を使ったフルーツバスケットならぬカラーバスケットを楽しむことができました。

ハローこども園の学び

～学びに向かう力、人間性づくりを～

2年ほど、園だよりの裏面で園での遊びや体験中心の活動が小学校の認知的な学習に、どうつながっていくのかを中心に具体的な内容を載せてきました。今まで、園だよりで紹介してきた通り、ハローこども園では、小学校の教科学習の基礎となる活動内容を組み込んだ指導計画を作成しています。

けれども、いくら、就学前から小学校に向けて、系統付けられた指導計画をもとに、子供たちが教科学習につながる基礎的な活動を経験したとしても、それだけでは学びに向かう力を培うことはできません。

多くの体験を重ねる中で、知識につながる内容だけではなく、豊かな人間性や学ぶ意欲を培っていく事が大切です。それに伴って、認知能力も高まっていくのです。

浜松市では、幼児期に育てたい力の土台として「自分のことを自分でする力」「人と関わる力」「身近なものや出来事とかかわる力」の3つの力を示しています。今年度は、そうした非認知能力も含めながら、具体的な活動や出来事を通して園での保育・教育について紹介していきます。

宮野恵理子

4月は、新しい担任や友達、保育室等、環境が変化する中、安心して楽しい気持ちで園に通えるような学級づくりを心がけています。そうした学級づくりは、保育教諭や友達との信頼関係が基盤となります。信頼関係は、相手の話を受け止めながら、自分の思いや考えも、相手にしっかり伝える中で深まっていきます。そして、「人とかかわる力」を培うには、まず「聞く力」が大切です。



保育教諭がきれいなチョウをひらひら舞わせて春のお話をしながら、子供たちをお話に引き寄せています。トイレを済ませた子供たちは、「話を聞きましょう。」などと言われなくても、自然に席に着き、保育教諭の話に聞き入っていきます。

上記のように未満児クラスでは、視覚教材や手遊びなどの工夫で、子供たちを引き付けながら、少しずつ話を聞く習慣を付けてきました。以上児になると、以下に紹介するように、話をする人の方を見て、話を聞き、自分の考えを発言できるようになっていきます。

以上児 うさぎ組



うさぎ組になったばかりの子供たちは、相手の顔をよく見て話を聞き、すぐに反応します。2回目の質問になると鳥の問題であることはすっかり忘れて、「汽車」や「朝ですよ。」などと答えるかわいらしい子どもたちでした。



地面には、四角、三角、丸、ハートの4つの形が、白線で描かれています。聞いた言葉から自分がイメージする形の所に移動します。上の写真は「パン」という言葉を聞いて移動している様子です。はじめは、友達につられがちでしたが、だんだん自分の考えを持って動けるようになっていきました。

つき組さんは、先日はじめての英語活動「英語であそぼ」を経験し、朝の健康観察も英語で行っています。今までとは違う健康観察に新鮮な気持ちで取り組み、保育教諭や友達の言葉をととてもよく聞いて英語で答えていました。